



2022年2月20日

日本ポニーベースボール協会
関東連盟審判部

審判行動マニュアル(登録審判用)

【目的】

試合開始前から試合終了後までの球場内での行動、規律を守ること。

安全かつ適正に試合が進行できるよう選手及び用具のチェック方法を以下のように順守すること。

- 集合場所：各球場内審判室
- 集合時間：第一試合 試合開始 **45 分前**、第二試合以降 前試合 **4 回表**終了時
- 集合報告：関東連盟審判員にチーム名、氏名、登録証登録番号の報告
- 服 装：関東連盟より指定された審判着、審判帽及び紺、黒系のアンダーシャツ、靴下、黒シューズ（黒ベースの白ラインは可）
- 持 ち 物：球審道具（球審を行う場合）、インジケーター、ベース刷毛

【チェック係業務】

- 1、審判は、大会本部より指定された場所で第一試合開始 40 分前、第二試合以降は前試合 4 回裏終了後、**球場担当役員、ベンチ入全指導者、主将、公式記録員、イージースコアラー**とともに攻守決め及び下記チェックを行う。
 - 1) 大会本部より「**選手登録書**」「**メンバー表 5 部**」「**投球インング表**」を受け取り、チェックを 2 名以上で行う。
 - ① 「**選手登録書**」「**メンバー表 5 部**」に記載された背番号、氏名を照合する。
照合方法は、1 名が「**メンバー表 5 部**」に記載された背番号、氏名を読み上げ、1 名が「**選手登録書**」の内容と不備が無い照合確認。
 - ② 「**投球インング表**」に記載された前試合インング数、投球数を確認。
必要があれば「**メンバー表 5 部**」の選手氏名横空欄に残り投球インング数を記入。
 - ③ 捕手が投手を兼任できない「**特別ルール**」を適用するため、捕手氏名横空欄に「**×印**」を記入する。
 - ④ 上記方法により「**メンバー表 5 部**」に不備が確認された場合は、速やかに指導者に報告。不備箇所の確認、訂正を求める。
 - ⑤ 「**指導者変更届**」がチームより提出された場合は、球場担当役員とともに変更指導者、背番号を確認。
 - ⑥ 照合確認後、チェックした内容（①～⑤）を出場チーム監督に説明する。
 - ⑦ 球審及び責任審判は、主将を集め攻守決めをじゃんけんで行い、各「**メンバー表 5 部**」の上部に先攻チームは「**先**」、後攻チームは「**後**」と記入する。「**先攻**」「**後攻**」と記載されているメンバー表は○印を記入する。（連盟審判員がいない場合は登録審判員が行うこと）
 - ⑧ 記入後、「**メンバー表 5 部**」は以下のように分類する。

青・・・審判控	ピンク・・・本部控
黄・・・放送控	白・・・相手チーム控
白・・・自チーム控	

2、審判は、シートノック開始後「メンバー表（青）」をもとに以下のチェックを2名以上で行う。

- 1) ベンチ前及びベンチ裏（球場によって異なる）において、先攻チームを先に先発メンバー順、控え選手は背番号（若番）順に整列させる。
- 2) 1名が「メンバー表（青）」に記載された背番号を上から読み上げ、選手に氏名を返答させ背番号を確認。不備が無いチェックする。（本部大会は、西暦で生年月日を返答）
- 3) このとき不備が発覚した場合は、速やかに指導者へ報告。不備箇所の訂正を求め球場担当役員に報告。訂正されたことを確認後、球場担当役員、対戦チーム指導者へ報告する。
- 4) 1名が用具チェックを実施する。
 - ① バットの傷、凹み、グリップの状態を目視にて確認及び中学硬式使用適合であるか確認。
（1年生大会等、USA バットを指定する大会もある）
 - ② 打者用ヘルメットの内部、外部に破損が無い目視にて確認及びSG マーク適合であるか、購入3年以内のものか確認。
 - ③ キャッチャー（捕手）道具のマスクに破損が無い目視にて確認及びSG マーク適合であるか、購入3年以内のものか確認。
プロテクター、レガースに破損が無い目視にて確認。
 - ④ 捕手における安全カップ装着の確認。（控え捕手含）
 - ⑤ 上記用具チェックにおいて不適合と認定されたものは、試合での使用を禁止しベンチから除くこと。
 - ⑥ 先攻チームのチェック後、シートノックが終了次第上記項目を同様に後攻チームへ実施すること。

3、試合開始

- 1) 審判は、審判室内において球審を中心に試合前ミーティングを行うこと。
内容は、球審のテリトリー、塁審のテリトリーの確認。サイン交換の確認等。
- 2) 審判は、1塁側もしくは3塁側バックネット横に集合。
整列順は右から1塁審判、球審、2塁審判、3塁審判。
2人制の場合は、右に塁審、左に球審の順に整列すること。
- 3) 両チームをベンチ前に整列させ、球審の挨拶とともに塁審は各ポジションに駆け足で行くこと。
ノックのボールが落ちてないか、ブルペンのドアが開いてないか等外野を見に行くこと。
球審は、ダートサークル外側に、守備ベンチ側に立つのが好ましい。
投球数は、初回6球、2回以降4球とするが、途中試合展開により3球にしても可。
- 4) 球審の『プレー』のコール発声で試合を開始する。
試合中は、両チームを公平に、基本に徹し常に大きな声、大きなジェスチャーでジャッジすること。
グラウンド内は常に駆け足を心掛け、攻守交代がスピーディーに行われるよう促すこと。

4、試合終了

- 1) 両チームの選手をベンチ前に整列させ、球審の『ゲーム』のコール発声で試合を終了する。
 - 2) 球審は試合終了後、バックネット前において**球場担当役員、監督、主将、スコアラー、公式記録員、イーゼースコアラー**とともに投球イニング数、投球数の確認を行い、「投球イニング表」の審判記入欄に貴チーム名、氏名を記入する。
 - 3) 審判は、審判室内において球審を中心に試合後ミーティングを行うこと。
内容は、球審の出来たこと、反省点、確認等。塁審の出来たこと、反省点、確認等。
関東連盟審判員よりアドバイスをいただき次回審判に生かすこと。
- 3) 球場内外での注意点
- ① グラウンドでは全ての者に挨拶を励行すること。
 - ② 審判登録証を必ず持参し、関東連盟審判員に提示すること。
 - ③ 審判着、審判帽を着帽しスタンドで観戦してはならない。
 - ④ 選手に対して、罵声、怒声を上げてはならない。
 - ⑤ 公式試合審判を行うにあたり、常日頃からルール等に関し勉強すること。
 - ⑥ 安易な気持ちでグラウンドに立たないこと。ボールは硬式球を使用しています。打球、投球、送球などが当たれば大けがをする可能性があります。
 - ⑦ 球審を行う場合は、必ず球審シューズを使用し、安全カップを装着すること。
 - ⑧ チーム内もしくは個人において、スポーツ保険に加入すること。

以上

文責 日本ポニーベースボール協会
関東連盟審判部長 上遠野 廣司